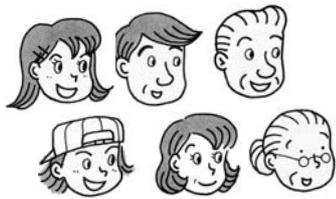


# 移動町長室を開催します

広報みなみふらの

お知らせ版

2008.11.15



今後のまちづくりについて、町民皆さんからご意見やご要望、ご提言をお伺いし、併せて来年度予算編成の参考とするため、「移動町長室」を開催します。

お誘い合せのうえ、ご出席いただきあなたの「声」をお聞かせください。

地区名	開催日	時間	場所
金山	12月1日(月)	午後6時30分	金山地区コミュニティセンター
落合	12月2日(火)	午後6時30分	落合地区多目的センター
下金山	12月3日(水)	午後6時30分	下金山地区多目的センター
幾寅・東鹿越	12月5日(金)	午後6時30分	役場 2階 大会議室
北落合	12月8日(月)	午後2時00分	北落合除雪管理センター

企画課（広報統計係）☎ 52 2115

No.175

安心して救急医療を受診するために

## 富良野圏域の救急医療体制は住民の総意で守りましょう！

富良野圏域の救急医療については、現在、病院・診療所の医師たちの努力により救急医療の実施を行っていますが、受診者の動向としては、そのほとんどが二次救急を担当する富良野協会病院で、そのうち概ね8割の方については比較的軽症者であり、休日や夜間に受診されることで入院や手術を必要とする重症患者の診察に支障をきたしています。

最近、富良野医師会の医師の高齢化も進み、また、富良野協会病院の医師も同様に平均年齢が上がっています。富良野医師会ならびに富良野協会病院としては、住民の総意に基づく診療に努力をしているところですが、特に富良野協会病院は365日24時間体制で診療にあたっており、休日・夜間の受診者は平均40人にもなり、担当の医師は入院患者の診療を含めて仮眠も取れない状況が続いています。

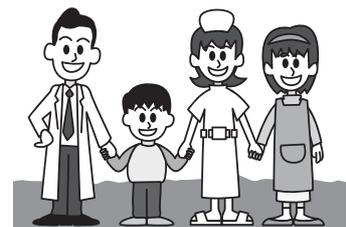
このため、医師は過重労働となっており救急医療体制全体が危機状態にあるといっても過言ではありません。そのことから全国的にも救急を返上する大病院も増加しています。

現在、医師確保は非常に厳しい状況にあります。特に地方においてはより厳しい環境となっていることから、地域センター病院である富良野協会病院の現在の体制を最低限確保する必要があると考えています。そのため、今後も救急医療を継続させていくためには、救急医療に携わる医師の負担を少しでも和らげることが必要となっています。

住民の皆さんには救急に対し再度認識いただき、適正な救急受診をされますよう最大限のご理解とご協力をよろしくお願いします。

適正な救急受診のためには・・・

- 日頃から症状があるときは、早めの受診を心がける。
- なるべく通常の時間内に「かかりつけ医」に診てもらう。
- 「救急が必要かどうかわからない」「どうしても不安だ」という場合は、まず電話でかかりつけ医または救急病院に相談する。
- 日頃から、救急が必要かどうか判断するための資料を準備する。



南富良野町・富良野医師会・富良野協会病院